

Contents

- 1) 学会からのお知らせ
- 2) 健康心理学コラム vol. 80 「地域課題と対人援助」 田中 宏二 (広島文化学園大学)

1) 学会からのお知らせ

■厚生労働省子ども家庭局家庭福祉課からの協力依頼 (学会事務局より)

厚生労働省子ども家庭局家庭福祉課より、「児童相談所における専門人材確保及び速やかな虐待通告の周知」について協力依頼が来ていますので、お知らせします。

添付文書をご覧ください。

2) 健康心理学コラム Vol. 80

「地域課題と対人援助」

田中 宏二 (広島文化学園大学)

2016年度に文科省の私立大学研究ブランディング事業に本学プロジェクト「地域共生のための対人援助システムの構築」が選定され、3年経過した。事業の趣旨は私立大学の研究面の特色づくり (大学ブランド形成) を支援 (年間3000万円) するもので、全学的な取組みの一部を紹介したい。看護研究部門 (土肥・讃井ら) は高い高齢化率 (34%) を示すK市において、認知症予防の支援プログラムの開発を目的として、高齢者が集いやすい「来んさいカフェ」を各地域で定期的に開設した。参加者に種々の介入行為を実施し前後の生理心理行動指標を測定し、効果的な支援プログラムを開発中である。介入エクササイズ例として咀嚼運動をあげる。BDNF (脳由来神経成長因子) は高次脳機能維持に必須の蛋白質であり、加齢に伴い減少する。カフェ参加者に咀嚼運動をさせることで唾液中 BDNF 濃度が増加し、咀嚼運動後も30分にわたり濃度が上昇し続けた。咀嚼運動が認知機能の維持・改善に繋がる可能性が示された。教育福祉研究部門 (眞田・橋本ら) は発達障害児への対応が課題のH市において、多感覚環境 (Snoezelen) の発達障害児への臨床的活用を前提に、多感覚環境のリラックス効果の実験研究を行っている。まずヒト一般に多感覚環境の疼痛緩和に及ぼす影響についてSEP (痛み関連誘発電位) 指標で軽減効果が認められた。さらに疼痛緩和は多感覚環境では認知的に注意が分散 (ERP のP300の振幅減衰) することに起因するものと推測された。

日本健康心理学会広報委員会

<http://jahp-public.blogspot.jp/>

メールマガジンの配信停止、アドレス変更は下記アドレスまで

日本健康心理学会事務局 <jahp-post@bunken.co.jp>

メールマガジンへのご意見・ご感想は下記アドレスまで

広報委員会 <jahp-ML@bunken.co.jp>

過去のメールマガジンは、こちらからご覧いただけます

<http://jahp.wdc-jp.com/health/health1.html>